

シルバコート
アルミニウムペイント□ 規格表示
□ 特長

- JIS K5492 アルミニウムペイント
- ・弱溶剤系であるため、臭気がマイルドで、下地を選ばずに塗装できます。
 - ・乾燥が速く、作業性にすぐれています。
 - ・暴露耐久性がすぐれています。
 - ・光・熱反射性にすぐれています。
 - ・高い耐熱性があります。

□ 塗料性状

色		シルバー色				
密度(g/cm³)(23℃)		0.97				
光沢		つや有り				
引火点		42				
発火点		190 (参考値)				
消防法 表示	化学名	合成樹脂エナメル塗料				
	危険物区分	第4類 第2石油類(非水溶性)				
	危険物等級	III (火気厳禁)				
有機溶剤区分		第3種				
毒劇物表示		-				
有害物表示		-				
ホルムアル デヒド	登録(認証)番号	-				
	区分表示	F				
放散等級		-				
国連/指針番号		1263/128				
環 境 性 能	クロルリス キレン	配合せず 0.6%	ホルムアルデヒド パラクロベンゼン	配合せず 配合せず	トルエン エチルベンゼン	配合せず 配合せず
	スレン(モノマー)	配合せず	フタル酸ジ-n-ブチル	配合せず	テトラカ ン	配合せず
	フタル酸ジ-2-エチルヘキシル	配合せず	ダイアジン	配合せず	アセトアルデヒド	配合せず
	フェノールカルブ	配合せず	鉛	配合せず		
T V O C		50.5%				

□ 塗装基準
下地調整：
荷 姿：
希 釈 剤：
塗 装 方 法：

- ・被塗面に付着したダスト・海塩粒子・その他の異物を洗浄ケレンしてください。
- 16L、4L、1L
塗料用シナー-A

塗 装 方 法	はけ、ウールローラー塗り	エアレススプレー塗り
希 釈 率	0 ~ 5%	0 ~ 5%
使 用 量	0.10kg/m ² /回	0.13kg/m ² /回
膜厚(ドライ)	20μm	20μm
膜厚(ウェット)	50μm	50μm

- ・上記の各数値は、標準的な数値です。被塗物の形状・素地の状態・気象条件・希釈率および測定機器・測定方法により増減します。
- ・上記の使用量は、記載の塗装方法で標準的に使用する量を記載しています。必要に応じ、所定の使用量・膜厚になるように使用量・塗り回数を調整してください。
- ・エアレス条件：一次圧0.4~0.5MPa 二次圧12~15MPa チップNo.163-613、615など
- ・塗布量・膜厚は標準の数値です。被塗物の形状・素地の状態・気象条件・希釈率及び測定機器測定方法により幅を生じ増減します。
- ・一次圧0.4~0.5MPa 二次圧12~15MPa チップNo.163-513、515など

エアレス条件：
乾 燥 時 間：

	5 ~ 10	23	30
指 触 乾 燥	2時間	1時間	40分
塗 り 重 ね 乾 燥	24時間以上	16時間以上	16時間以上

- ・乾燥時間は目安です。使用量、通風、湿度および素地の状態によって異なります。

□ 特記事項

- ・塗装場所の気温が5℃未満、もしくは湿度85%以上である場合、または換気が十分でなく結露が考えられる場合、塗装は避けてください。
- ・規定範囲を超えてシンナーで薄めすぎたものを使用したり、長期間開缶のまま保存されたものを使用しますとリーフィングむらを生じることがあります。使用後容器は必ず密閉し、できるだけ早く使い切ってください。
- ・酸性雰囲気では変色しやすいのでご注意ください。
- ・乾燥後でも塗膜をこすると、アルミニウムがとれる場合があります。
- ・水に常時接触する箇所、あるいは水没する所には適用を避けてください。
- ・鉄部には直接塗装できません。あらかじめ、さび止め塗料を塗っておく必要があります。

□ 注 意 事 項

- ・ 溶剤系塗料のため、室内での塗装は必ず換気をしてください。また、外部での塗装においても、換気口・空気取入口などに養生を行い、溶剤蒸気が室内に入らないように注意してください。居住者へのご配慮をお願い致します。
- ・ 所定のシンナー以外を使用したり、薄めすぎるとつや引けやダレ、かぶり不良などをきたす原因になりますので、必ず所定のシンナーおよび希釈率をまもってください。
- ・ 硬化が不十分な場合は、シンナーで再溶解する場合があります。
- ・ 旧塗膜に発生した藻・かびは、洗浄などで必ず除去し、清浄な面としてください。付着阻害をおこすおそれがあります。
- ・ 既存塗膜のはく離箇所は、既存塗膜の塗装仕様でパターン合わせを行ってください。
- ・ 改修工事にご使用の場合は、旧塗膜の種類によっては溶剤などの影響により、旧塗膜を侵し溶剤膨れや縮みなどの異常が発生する場合がありますので、旧塗膜の種類をご確認のうえ、塗装仕様をご検討ください。
- ・ 素地の乾燥は十分に行ってください。
- ・ 屋外の塗装で降雨、降雪のおそれがある場合、および強風時は塗装を避けてください。
- ・ 塗装時および塗装後に密閉しますと乾燥が遅れますので、換気を十分に行ってください。
- ・ 塗装時および塗料の取り扱い時は、換気を十分に行い、火気厳禁にしてください。
- ・ 飛散防止のため必ず養生を行ってください。
- ・ 薄めすぎは隠ぺい力不足、仕上がり不良などが起こるため規定範囲を超えて希釈しないでください。
- ・ はけ塗り仕上げとローラー仕上げが混在する場合、使用量、表面肌が異なるため若干の色相差がでますので、はけ塗りの部分は希釈を少なくして塗装してください。
- ・ ローラー塗りの場合、ローラー目は同一方向に揃えるように仕上げてください。ローラー目により、色相や仕上がり感が異なって見えることがあります。
- ・ 塗装方法により色相が多少変化する場合がありますので、ローラー塗りはできる限り入り隅まで入れてください。
- ・ 汚れ、きずなどにより補修塗りが必要な場合があります。使用塗料のロットは必ず控えておき、補修の際は塗料ロット、希釈率、および補修方法などの塗装条件を同一にしてください。
- ・ ローラー、はけなどは、ほかの塗料での塗装に使用すると、はじきなどが発生するおそれがありますので、十分に洗浄するか、専用でご使用ください。
- ・ 塗料は内容物が均一になるようにかくはんしてください。特につや調整品では、つや消し剤が沈降している場合がありますので、かくはん機を用いて缶底の沈降物を十分にかくはんしてご使用ください。
- ・ 開封後は一度に使い切ってください。やむを得ず保管する場合は密栓してから冷暗所で保存し、速やかに使い切ってください。
- ・ 塗料漏洩の原因になりますので、保管・運搬時に容器を横倒しにしないでください。
- ・ 製品の安全に関する詳細な内容については、安全データシート（SDS）をご参照ください。